



児童生徒の皆さんと市長

ヒマワリの花で笑顔になって

市内小中学校特別支援学級の児童生徒から7月18日、ヒマワリのプランターが届きました。

「ひまわり活動」は命を大切に作る心を育て、人と関わる力を高めようと平成25年から続いているもので、今年で7回目。この日は8人の代表児童生徒の皆さんが市役所を訪れました。

プランターを受け取った市長は「市役所に来るたくさんの人に見てもらえる。みんなもヒマワリのようにすくすくと成長してほしい」と語りました。

本で地域と連携

岐阜医療科学大学可児キャンパス図書館と可児市立図書館の覚書調印締結式が7月30日、市役所で行われました。これにより、大学図書館と市図書館が資料を相互利用でき、市民の皆さんが同大学の図書館も利用できるようになります。

山岡学長は「今後も蔵書数が増える予定。地域との連携を深め、市民が誇りに思える大学にしていきたい」と思いを語りました。



覚書に署名する山岡学長（右）と市長



平牧地区センターでの講座の様子

光秀博士になれる!

7月30日、「知ろう! 探ろう! 明智光秀のすべて」と題した講座が行われ、40人が参加しました。参加者からは「さまざまな書物の解説は大変興味深いものだった」「今回の座学編を聞いて、現地編がより楽しみになった」といった声が聞かれ、光秀への関心を深めていました。

この講座は明智城跡周辺でのボランティアガイドの育成も目的としており、今後も随時ボランティアの募集が行われます。みんなで明智荘を盛り上げましょう!

桔梗が開花!

7月下旬、明智城の登り口「桔梗坂」に桔梗の花が咲きました。この花は市民団体の桔梗を育てる会が桔梗坂を彩ろうと苗を植え、手入れしています。

桔梗の花がモチーフの桔梗紋は、美濃国に一大勢力を築いていた土岐一族が使い、土岐氏の流れをくむ明智氏出身の光秀も使ったといわれています。そんな桔梗の花の開花は9月頃まで! 皆さんも一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



桔梗坂（左）と桔梗の花（右）

おかえりっ、尾木ママ! ~1年ぶりに可児へ~



(上) 子育てへの想いを語る収録時の様子
(右) 参加者からの相談を受ける尾木ママ

「いじめ防止専門委員会」が発足した平成24年から市の特別顧問を務める尾木ママこと尾木直樹さんが、7月7日、子育て健康プラザ・マーノを訪れました。

8月10日から2週間放送したケーブルテレビの番組で「いじめをしない子に育てる方法」を語ってくれました。収録で訪れた尾木ママに、マーノに居合わせた利用者から喜びと驚きの声があがりました。

8日は、家庭教育学級のリーダーなど約200人を対象に行った子育て相談会で、子育てに関する悩みや疑問に直接助言しました。参加者からは「これから成長していく過程でぶつかる問題に対して、どう向き合っていけばよいかとても勉強になりました」など子育てに活かしていきたいという声がたくさん聞きました。最後に「これからは心根のよい子に育てることが大事。答えはひとつではないので無理せず頑張ってください」と尾木ママからエールが送られました。



試食会の様子



ムラサキイモパウダーで色付けた桔梗型の麺帯

光秀と同じ明智荘生まれ

ハートピア可児の杜（瀬田）で7月1日、「美濃国明智荘の桔梗うどん」の完成披露試食会に市長とふるさと広報大使の塚本明里さんが出席しました。障がい者の就労移行支援の一環として、同施設が実施。職員が製麺し、利用者はパッケージのシール貼りや箱詰めを担当しています。

今後は市内のイベントや道の駅可児ッテなどで販売する予定です。見かけたら手に取ってみてくださいね。

7・15集中豪雨災害を忘れない

平成22年に可児市で発生した7・15集中豪雨災害では、可児川の氾濫で1人が亡くなり2人が行方不明となりました。9年たった7月15日、市民団体が集いの会を催し、犠牲者の家族や支援者30人が参加。献花を可児川に流すなどして犠牲者をしのび、二度とこのようなことが起きないようにと祈りました。富田市長は「防ぐことができた災害。二度と尊い命をなくさないよう、できる限りの対策をする」と述べました。



犠牲者をしのぶ参加者